

グローバル・カフェ×留学生センター共催「台湾 & ベトナムイベント」を開催しました

6月12日（水）、留学生センターとの共催で「台湾 & ベトナムイベント」を開催しました。さぬきプログラムに参加している台湾出身の Liu Bo-Cheng（以下、リュウ）さんとベトナム出身の Pham Thi Dam（以下、ダム）さん、Bui Cong Tri（以下、チー）さんより出身地紹介していただきました。留学生17名、日本人学生4名、教職員4名の計25名が参加しました。

リュウさんは台湾について、総面積は日本の九州とほぼ同じ、人口約2300万人、13県、3市、6直轄市（独自の自治権を持つ市）で構成され、大きく北台湾、中台湾、南台湾の3つに分けられていると話されました。有名な観光地として「高美湿地（Gaomei Wetlands）」を挙げ、風力発電用に設置された風車と、広大な湿地に沈む夕日が相まって幻想的な景観を生み出すことから、台湾の真珠と呼ばれ、日が沈む時間帯になると多くの人を訪れると述べました。また伝統料理として牛肉のスライスと太麺が特徴的な「牛肉麵（Beef noodles）」、揚げた豆腐を発酵させた「臭豆腐（Stinky Tofu）」等を紹介しました。街で日没後に開店する「夜市（Night market）」に行くと手軽に手に入るのぜひ食べてみて欲しいと付け加えました。（臭豆腐は匂いが強ければ強いほど美味しいとされているそうです）



続いてダムさんより、ベトナムは58省、5中央直轄市、2つの島で構成されていること、首都はハノイ、最大都市はホーチミン市（旧名サイゴン）、人口約1億人のうち87%はKinh(Viet)族が占めるが、54もの民族が共存する多民族国家であること等が紹介されました。チーさんは民族衣装である「Áo Dài（アオザイ）」と「Nón Lá（ノンラー）」について説明しました。前者は長袖のタイトな上着（アオ）と膝丈のパンツスカート（ザイ）で構成され、結婚式や卒業式などフォーマルな場面で着用され、航空会社の客室乗務員やホテルでは職場の制服に採用している企業も多いそうです。後者は円形型の頭にかぶる笠であり、軽量で丈夫な竹やパームリーフから作られていて、日よけや雨よけとして特に農村部で広く使用されています。アオザイを着てノンラーをかぶる姿はベトナムの象徴的なイメージとして広く認知されていると話しました。イベント中に同じくベトナム出身の留学生がアオザイを着用して登場して、会場から拍手が起こる場面もありました。



イベント最後には参加者へリュウさんから台湾の菓子、ダムさんとチーさんからベトナムの菓子が配られ、各々その場で初めて食べる味を楽しんでいた様子でした。